

私の人生の真実を見つめる目も、少しは鍛えられたのではないかと  
思っています。

大館のことについては何も知らない私を、あたたかく見守ってくださった方々。そして、取材に協力してくださった方々。本当にありがとうございます。

市民の皆様にとっても、新しく転居して来られる方にとっても、この大館が素晴らしい所でもありますように。そして、これからの大館が、シンデレラが迎えられた宮殿よりも、より一層輝かしい所となることと、私は心から願わずにはいません。

### リポーターを終えて

佐々木 紀子

知り合いの方から市民リポーターを勧められ引き受けました

### 佐々木紀子リポーター

(花岡・本郷上)



が、これまで漠然と人ごとのように思っていた事が自分に降り掛かり、浅学の私は戸惑いました。一回、二回と広報担当の方々や、取材先の福祉事務所の所長さんをはじめ皆様の親切なご指導をいただき感謝しています。

日本赤十字社の社費については、今後も皆さんが支援の手を緩めずに、日赤社員の増強に努めていくことが課題ではないでしょうか。そのためには、一人でも多くの方々に社員として加入していただくように、PRの方法を考えていかなければと強く感じました。

また、「老いる」ということは、確実に私たちにも訪れてきます。「人生八十年」、これを長いと思えるか、短いと思うかは、それぞれの生き方、考え方で違いが出てくることでしょう。充実した

### 小畑公悦リポーター

(上四羽出)



人生でありたいと願うのは、合言葉のようにだれもが持っている素直な気持ちではないでしょうか。私の周囲にも、寝たきりのお年寄りを介護している方々がいます。この問題は人ごとではありません。お年寄りを寝たきりにさせないため、家庭での介護方法を学ぶ講座等がもっとあって欲しいものだと思います。

取材を終わって、動ける時に少しでも人様のお役に立てればと私なりに考えています。また、ボランティア活動の重要性を強く感じました。

### 失いかけたもの

小畑 公悦

私たちの生活の基本はこれまで衣・食・住といわれてきましたが、現在は、医・食・遊・車・住と

### 野口和哉リポーター

(幸町)



いわれるくらい生活も多様化してきています。それに併せて高齢化や環境問題が身近なものとなり、今後ますます複雑多岐な社会構造となってくると思っています。そんな中で、私たちは、もっと身近で大切なものを見逃したり、忘れてしまったりしているのがあるのではと感じています。それは、テレビ、新聞、雑誌などのマスメディアの発達と情報量の多さが生活を便利にしている反面、社会に様々な形で問題をつくり出しているように思います。また、時代

が要求したのか、二十四時間フルタイム社会が活動し、私たちは好むと好まざるにかかわらず順応していかなければなりません。私は、リポーターをしてみても、私たちの周りには課題や問題が山積している現状を身近なこととして考えるようになりました。それは行政の力だけでは改善できないこともあり、市民の協力と参加によらなければ住み良いまちづくりができないことを感じました。

また、「大館には若者はいるのか、存在感がない」という言葉が聞かれます。少し前までは、各地区に青年会や青年団などがあった活動が盛んに行われていました。しかし、現在は、目立ちたがり屋がないのか、社会現象なのか、青年会などの活動が

少なくなりました。もっと若者が「青春しているぞ」というまちなったらと思います。

### 私にできること

野口 和哉

突然の出来事だった市民リポーターの話。戸惑いながら引き受けたものの、何をどのように取材し、原稿を書いてよいのか分からず、眠れぬ夜を過ごしてしまいました。なぜなら、私は今、周りで起こっている社会問題に興味がなかったからです。

私が最初に取材をお願いした「大館青年会議所」の小笠原渉さんからは、三十五年も前から地域のオピニオンリーダーとして、大館を愛し、素晴らしい大館を創造しようとしている団体の話を伺いました。その中に忠犬ハチ公を古里のシンボルとした「ホワイトガーデン構想」の話がありましたので、興味を持った私は次の取材を「ホワイトガーデン協会」にし、会長の石川成さんに伺いました。取材に応じてくださった二人は共に、「大館を良くするために」との活動を熱く語っておられ、私自身も心が熱くなったのを忘れられませんでしたが、私もその仲間として参加しようと思えました。

私も「大館」が大好きです。